

2021 年度事業ならびに活動計画

特定非営利活動法人 安全工学会

定款第 3 条（目的）

この法人は、主として産業に関する安全の諸問題を広く工学的に調査・研究し、各種災害の防止のための知識・技術の向上及び普及を図り、もって産業及び学術の発展並びに社会の安全安心の獲得に貢献することを目的とする。

1. 事業活動方針

昨年から感染拡大が治まらない新型コロナウイルス感染症 COVID-19 への対処を前提として、インターネットによる遠隔会議・講演会などの手法を駆使して、会員への感染の影響を受けることなく、学会の本来の活動を再開し継続してゆく。

2020 年度は実質的に活動を減縮し、可能な範囲の活動に注力して部分的な拡大を図り、活動減縮下ながら収益を確保した。

2021 年度は、COVID-19 蔓延の下、その影響を防護することを前提に、Web による遠隔会議・講演会などを駆使し、学会本来の活動の再開、再構築を模索してゆく。

2017 年（創立 60 周年）以降、さまざまな会議体で得られた 6 つの要点（教育、継続的ビジョンの見直し&設定、研究会企画、防災、プロセス安全、学会の社会貢献）に対して、2019 年度の萌芽、2020 年度の COVID-19 による停滞を経て、2021 年度は具体的な活動を進める。

『(1)教育』については、企画委員会で検討を進め、枠組みの提案を学術委員会に提示した。2021 年度は、学術委員会で具体化に向け検討を進める。

『(2)学会の Vision の見直し&設定の仕組み』については、理事会に加え、企画委員会を介して提言を行う若手学会員を核とした将来構想研究会が発足し、一昨年度の研究発表会で WS を開催するなどの活動を開始した。2020 年度の空白を経るが、Web 会議などを駆使し、2021 年度は若手メンバーの研鑽、情報交換の場として活動を定着し、具体的な問題提起や提言の発信を目指す。

『(3)研究会・研究部会の企画』については、企画委員会で産業防災研究会を企画発足し、その運営を学術委員会に委ねた。2021 年度は、改めて企画委員会で「安全工学会の活動範囲について」から新たなメンバーで議論を交えて、今後向かうべき方向を確認して行く（2021 年は 2017 年の創立 60 周年から 5 年目の中間点）。

『(4)防災と安全工学』については、前記のように産業防災研究会を立ち上げた。2021 年度は同研究会の活動（COVID-19 下の産業界の対応状況の系統的な記録など）を軸に、防災学術連携体との連携を交え、Vision と Mission を明確にして活動を進めてゆく。

『(5)化学プロセス安全』については、企画中のプロセス安全管理手法研究会を進め、Vision と Mission を明確にして活動を進める。

さらに 2017 年の CCPS の GSPS の開催を機に、2018 年岡山、2019 年四日市、2020 年 Web で研究発表会と合同開催と進んできたプロセス安全シンポジウムを、2021 年度も継続して開催する。現場の実際の安全について情報を交換し相互に啓発し研鑽を積む貴重な場を、継続して提供する。併せて、学のみから俯瞰して、これを大系化することを模索する。

『(6)学会の社会貢献』については、総務委員会の提案（消費税の10%化を踏まえて、学会の会費の適正化）を検討し、2020年度、さらに学会の付加価値の在り方を加味して検討する方向が提示され、仕切り直しを図り検討した。2021年度は、学会の将来構想と連携した、貢献の付加価値を加味した案としてまとめ上げて行く。

また、周辺学協会との連携に努め、講演会、セミナー、講習会などの集客を図り、昨年度は一昨年度に比べ参加者数の向上がみられた（安全工学セミナー11%増など）。2021年度は連携の強化と定着化に努める。

2019年度は、奨励賞を改定し、研究発表会での発表技術を表彰する優秀・学生講演賞と、学術技術奨励賞とを創設した（奨励賞は廃止）。主に若手及び中堅の会員を適切な形で顕彰することを目指した。2020年度も継承し、2021年度も同様に定着に努める。

学会の普及啓発活動については、COVID-19の状況下、感染予防を前提に、Webの活用などにより、活動の再開、実施を模索する。これまでも周辺学協会や工業協会との連携を図っているが、一步進んで、他学会との共同企画の推進なども、横串学会の真価を発揮すべく、模索してゆく。

安全工学会誌の論文発表は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発信の場として、重要な役割を果たしている。2021年度は、研究会などの成果を積極的に発信する。また、「安全工学」を軸に、非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は世界的にも稀有な存在といえ、この特徴を大切に育てる（英文化も含め）。

2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業

2. 1 安全工学に関する研究・教育事業

① 安全工学に関する研究

学術委員会を中心に安全及び安全教育に関し検討を進め、普及、啓発活動に注力する。研究会活動の活性化（医療安全研究会、産業防災研究会など）、再構築に努力する。

② 安全工学シンポジウム 2021

安全工学を軸とした、横断的な研究発表会への参加（PD：「ウイズコロナ時代の安全・安心」／実行委員会（一部参加）、OS：「外部要因による事故・災害（自然災害、人災）への対応」、「組織行動からの事故などの未然防止」、他）。

開催月日：2021年6月30日（水）～7月2日（金）

開催場所：日本学術会議

参加予定者：550名

主催：日本学術会議

幹事学会：（公社）日本化学会

共催：安全工学会ほか34学協会（予定）

③ 安全工学研究発表会（第54回）及び2021 プロセス安全シンポジウム

安全工学会を軸とした、安全工学研究成果の発表会を主催する。またプロセス安全に係る特化した情報交流、切磋琢磨の場として、継続して2021 プロセス安全シンポジウム（2021PSS）を合同開催する。

開催月日：研究発表会／2021年12月2日（木）～3日（金）

2021PSS / 2021年11月30日（火）～12月1日（水）（仮）

開催場所：アイーナ（いわて県民情報交流センター）

（ただし COVID-19 の感染状況により Web 開催なども柔軟に検討する。
なお 2021 PSS は Web 開催のみ実施）

参加予定者：各々200名、計400名

④ 研究・教育事業管理

対象委員会・研究会

学術委員会 3-4回

安全工学研究発表実行委員会 1-2回

医療安全研究会 6回

産業防災研究会 4~6回

新規研究会の立ち上げ

2. 2 安全工学に関する普及啓発事業

2.2.1 一般普及事業

(1) 会誌“安全工学”

①発行 印刷物の発行 年6回

②電子化推進

J-stage の公開 2016年6月発行分～実施済み、逐次更新

J-stage 公開の推進（過去の掲載については作業終了）

③英文誌の検討

J-stage を介した派生誌としての英文誌の検討（オープンアクセスなど）

(2) 講習会・セミナー

①第43回安全工学セミナー

物質危険性講座 2021年08月19日(木)～20日(金)

危険現象講座 2021年10月21日(木)～22日(金)

プラント安全講座 2021年11月16日(火)～17日(水)

安全マネジメント講座 2022年01月 下旬（調整中）

実施予定場所 COVID-19に配慮してWebexによるインターネット開催

参加募集人員 各回100人以内（予定）

②第20、21回安全工学地域セミナー

開催月日

実施予定場所 実施検討中

参加募集人員 30人

③第34回安全管理の最新動向講習会

開催月日 2021年10月検討中

実施予定場所 COVID-19に配慮してWebexによるインターネット開催

参加募集人員 100人以内

④第19回安全工学実験講座

開催月日 1回 2021年中、検討中

実施予定場所 日本カーリット（株）

参加募集人員 20人

⑤災害事例研究会

開催月日 2回 2021年、検討中

実施予定場所 COVID-19に配慮してWebexによるインターネット開催

参加予定人員 各回 100 人以内

⑥地域・企業支援セミナー

日本全国の地域・企業への講師の派遣 2～4 件程度

⑦安全教育セミナー

安全教育担当向けセミナーの継続開催の推進

開催 月日： 2022 年 2 月下旬予定

開催 場所：三井化学株式会社 茂原分工場

参加予定者：20 人

⑧普及啓発事業管理

・対象委員会・研究会等

編集委員会 12 回

普及委員会 4 回

・会誌への広告募集管理

(3) 図書販売・会誌の年間購読販売

法人事務所にて図書販売等を実施する。安全工学便覧第 4 版の販促。

2.2.2 普及啓発事業：受託事業

経済産業省の新規事業に注目し、受託事業管理委員会管理下、対応可否を検討する(適宜)。

2. 3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行う。また、非会員への PR を推進する(継続)。

2. 4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

学会賞授与 安全工学に貢献した学術業績、優秀論文、功労者を表彰する。

対象：安全工学論文賞(2 件以内)、玉置功労賞(2 名以内)、北川学術賞(2 名以内)、優秀・学生講演賞(2 名以内/研究発表会での決定・表彰)、学術技術奨励賞(2 名以内)。

2. 5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に安全工学の発展のために協業を模索する。国際的には、APASES (Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies, アジア太平洋安全工学学協会連合) に参加(継続)、APSS、CCPS、ICSI などの情報交換を継続、発展させる(継続)。

①諸会費

(社)日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入(継続)

②安全工学シンポジウム 2021 他

③防災学術連携体、日本化学連合(オブザーバー)への参加を継続し、接点を模索する。

④化学工学会、石油化学工業会、日本化学工業協会、化成品工業会、(独)情報処理推進機構などの周辺学協会との連携を深める。

2. 6 管理業務

- ①総会 1回開催
開催月日：2021年5月25日（火）
開催場所：品川文化事業団 きゅりあん（JR大井町）
- ②理事会 4回開催（COVID-19に配慮してWebexのインターネット開催など）
開催月日：2021年5月6日（木）
2021年7月、11月、2022年3月（調整中）
- ③評議員会 1回開催
開催月日：2021年5月調整中
- ④監事会 1回開催
開催月日：2021年4月28日（水）
- ⑤委員会
総務委員会 必要に応じて開催
企画委員会 4回開催
アドバイザリーボード 1回開催
- ⑥現場研修会 2回開催
開催日：2021年4～9月、2022年3月予定
見学先：調整中
参加予定人員：安全工学会の会員 各回20～30名
その他未定

以上